

## 2020 年度前期 京都大学文学研究科 授業評価アンケート 集計結果

京都大学文学部・文学研究科では、学期末に授業評価アンケートを実施し、自己点検・評価に役立てるとともに、その集計結果を公開しています。ご協力いただきました教員・学生の皆さんに、お礼申し上げます。

### 【実施時期】

2020 年 7 月 9 日～8 月 19 日

### 【回答率】

対象科目数 288 科目、履修者数（延べ）1488 人に対し、回答者数は 288 人、回答率は 19.4%であった。

### 【結果の概評】

アンケートの回答率は、昨年度前期と全く同じ 19.4%であり、依然として低水準にとどまっている。大学院の授業は学部以上に少人数授業が多いため、アンケートの回答率を上昇させるのもいっそう難しいと考えられるとはいえ、改善に向けた工夫の余地はあるだろう。

今年度前期は、新型コロナウイルスの感染拡大に対応するため、授業開始が遅れ、開始後の授業は実質的にすべてがオンライン・ミーティング形式などの非対面型で実施された。今年度前期のアンケート結果の考察に際しては、授業実施形態という点で従来と大きな相違があることを念頭に置く必要があるだろう。

最初に概括的に述べるならば、学部生を対象とするアンケートでは全体的に昨年度よりも好ましい内容の回答の割合が増加したのとは対照的に、大学院生についてはその割合が低下している。以下では、各項目について具体的に見ていくこととする。

授業への出席回数を問う Q.01 については、「7 回以上 10 回未満」とそれ以下の回答の合計が 16.7%に達しており、昨年度前期の 9.8%に比べて大幅に増加している。さらに懸念されるのは、Q.02「この授業のために、予習・復習、宿題・課題を行った合計の時間はどれくらいですか」に対して、「3 時間以上」との回答が、昨年度前期には 35.7%であったのに対して、今年度前期には 31.9%に低下していることである。これに対応するように、「1 時間以上 2 時間未満」との回答は、昨年度前期の 23.7%に対して今年度前期は 31.9%に増加している。1 時間以上との回答を合算すると、昨年度前期が 76.4%に対して今年度前期が 81.4%と増加しているため、一概に大学院生が勉強しなくなったといえるわけではないが、自習に長時間をかけている大学院生の割合が低下していることは気懸かりである。

同様に気懸かりなのは、学生の授業への取り組み方を反映していると考えられる項目へのポジティブな回答の割合の定価である。Q.03「あなたはこの授業に積極的に参加しましたか」という項目への「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせたポジティブな回答は約 86%で、昨年度同期比で 7 ポイント低下した。Q.11「この授業を通じて知的な問題に取

り組む力が向上しましたか」に対するポジティブな回答の合計は 92%で、前年度同期比で 4 ポイント低下している。昨年度の数字がきわめて高かったことなども考えあわせる必要があるものの、ポジティブな回答の割合の低下は、警戒すべき傾向と捉えるべきかもしれない。

授業に対する評価についても、懸念すべき傾向が見られる。Q.05「この授業は体系的であり、よくまとまっていたか」に対するポジティブな回答は約 83%で、前年度同期比 11 ポイント低下している。ほかにも、Q.07「教員の声はよく聞こえましたか」に対するポジティブな回答は 88%（前年度同期比マイナス 10 ポイント）、Q.09「学生の理解度や反応に配慮して授業が進められましたか」に対するポジティブな回答は 86%（同マイナス 4 ポイント）、Q.12「この授業は全体として満足できる内容でしたか」に対するポジティブな回答は 93%（同マイナス 2 ポイント）など、授業への満足度を問う項目については、前年度同期比でポジティブな回答の割合が低下する傾向が見られる。Q.07 と Q.09 については、学部生のアンケートでも同様の傾向が見られるが、大学院生からの回答の方が低下率は大きい。ここからは、非対面型授業が大学院レベルの教育に必ずしも十分に対応できなかった可能性を指摘できる。

大学院生のアンケートを学部生のアンケートと比較すると、興味深い傾向も読み取れる。Q.03「あなたはこの授業に積極的に参加しましたか」、Q.11「この授業を通じて、知的な問題に取り組む力が向上しましたか」、Q.12「この授業は全体として満足できる内容でしたか」については、大学院でポジティブな回答の割合が低下する一方で、学部ではその割合が増加しており、結果的に、学部と大学院のポジティブな回答の割合がほぼ同じになっている。（つまり、これらは前年度前期には学部と大学院でポジティブな回答の割合が大きく開いていた項目である。）自習時間についても、大学院においてはより長時間を充てたとする回答が減少したのに対して、学部においてはそれが増加する傾向が見られ、両者間の差が縮小した。すなわち、今年度前期の数字を大学院と学部の間で比較するならば、前年度に比べてその相違が縮小する傾向が見られるのである。このことがどのような実態を表しているのかをこのアンケートだけから読み取ることはできないものの、大学院生の方が非対面型授業への取り組みが受動的になる傾向が強い、あるいは大学院生の研究や勉学に取り組む姿勢が学部生のそれに近づいている（学部生時代の意識を脱却していない）可能性も否定できない。大学院生の授業に対する満足度が低下する傾向にあることをも考えあわせるならば、とりわけ対面型の指導が制限される状況においては、大学院生に対する指導に従来以上に細心の注意が必要であると考えられる。

アンケートの自由記述欄（ウェブ上では非公開）には例年以上に多くの回答が寄せられた。授業への満足度にかかわる記述については、学部学生からの回答よりもポジティブなものが多かった一方で、非対面型授業に特有の技術的な問題については、学部の場合と同様の指摘があった。また、学部アンケートで数多く寄せられた、課題が過重であったとの指摘は、大学院では（皆無ではないものの）ほとんど見られなかった一方で、グループワ

一々の困難さや、同じ授業を受講している学生とのコミュニケーションの不足や困難を指摘する記述は、学部以上に目立った。このような自由記述欄の回答もまた、非対面型授業において学部生以上に大学院生への配慮が必要とされていることを示唆しているのかもしれない。

アンケート名 2020年度\_前期\_文学研究科\_授業評価アンケート

部局 文学研究科

開講年度 2020

対象科目数 338

履修者数 1488

回答者数 288

回答率 19.4

結果 (Q.01) あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。

A: 13回以上 (54票/18.8%)

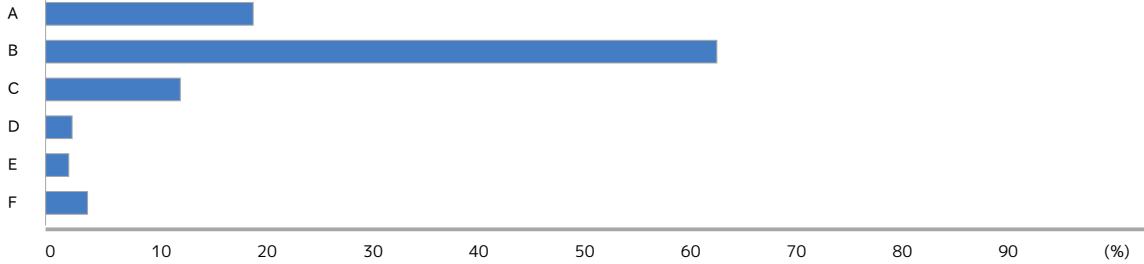
B: 10回以上13回未満 (175票/60.8%)

C: 7回以上10回未満 (35票/12.2%)

D: 4回以上 7回未満 (7票/2.4%)

E: 4回未満 (6票/2.1%)

F: 無回答 (11票/3.8%)



(Q.02) この授業のために、予習・復習、宿題・課題等を行った合計の時間（学期を通じた1週間当たりの平均値、30分単位）はどれくらいですか。

A: 3時間以上 (92票/31.9%)

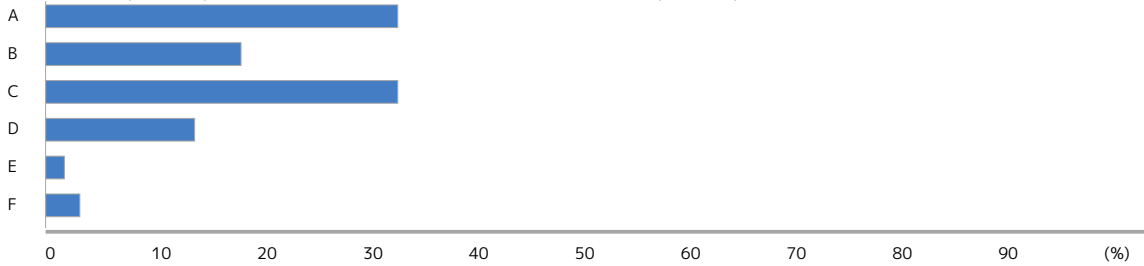
B: 2時間以上3時間未満 (51票/17.7%)

C: 1時間以上2時間未満 (92票/31.9%)

D: 0.5時間以上1時間未満 (39票/13.5%)

E: 0.5時間未満 (5票/1.7%)

F: 無回答 (9票/3.1%)



(Q.03) あなたはこの授業に意欲的に参加しましたか。

A: とてもそう思う (140票/48.6%)

B: そう思う (110票/38.2%)

C: どちらとも言えない (27票/9.4%)

D: そう思わない (7票/2.4%)

E: 全くそう思わない (2票/0.7%)

F: 無回答 (2票/0.7%)



(Q.04) 授業に対する教員の熱意は感じられましたか。

A: とてもそう思う (200票/69.4%)

B: そう思う (73票/25.3%)

C: どちらとも言えない (11票/3.8%)

D: そう思わない (3票/1%)

E: 全くそう思わない (1票/0.3%)

F: 無回答 (0票/0%)



(Q.05) この授業は体系的であり、よくまとまっていましたか。

A: とてもそう思う (181票/62.8%)

B: そう思う (89票/30.9%)

C: どちらとも言えない (14票/4.9%)

D: そう思わない (3票/1%)

E: 全くそう思わない (1票/0.3%)

F: 無回答 (0票/0%)



(Q.06) 授業はシラバスに沿っていましたか。

- A: とてもそう思う (172票/59.7%)
- B: そう思う (97票/33.7%)
- C: どちらとも言えない (18票/6.3%)
- D: そう思わない (1票/0.3%)
- E: 全くそう思わない (0票/0%)
- F: 無回答 (0票/0%)



(Q.07) 教員の声はよく聞き取れましたか。

- A: とてもそう思う (195票/67.7%)
- B: そう思う (60票/20.8%)
- C: どちらとも言えない (29票/10.1%)
- D: そう思わない (3票/1%)
- E: 全くそう思わない (1票/0.3%)
- F: 無回答 (0票/0%)



(Q.08) 板書の文字や機器による掲示は見やすかったですか。

- A: とてもそう思う (184票/63.9%)
- B: そう思う (63票/21.9%)
- C: どちらとも言えない (34票/11.8%)
- D: そう思わない (2票/0.7%)
- E: 全くそう思わない (1票/0.3%)
- F: 無回答 (4票/1.4%)



(Q.09) 学生の理解度や反応に配慮して授業が進められましたか。

- A: とてもそう思う (171票/59.4%)
- B: そう思う (79票/27.4%)
- C: どちらとも言えない (29票/10.1%)
- D: そう思わない (6票/2.1%)
- E: 全くそう思わない (2票/0.7%)
- F: 無回答 (1票/0.3%)



(Q.10) 自主的な学習を促すための工夫や補足説明がありましたか。

- A: とてもそう思う (172票/59.7%)
- B: そう思う (93票/32.3%)
- C: どちらとも言えない (18票/6.3%)
- D: そう思わない (3票/1%)
- E: 全くそう思わない (2票/0.7%)
- F: 無回答 (0票/0%)



(Q.11) この授業を通じて、知的な問題に取り組む力が向上しましたか。

- A: とてもそう思う (169票/58.7%)
- B: そう思う (98票/34%)
- C: どちらとも言えない (14票/4.9%)
- D: そう思わない (5票/1.7%)
- E: 全くそう思わない (1票/0.3%)
- F: 無回答 (1票/0.3%)



(Q.12) この授業は全体として満足できる内容でしたか。

- A: とても思う (184票/63.9%)
- B: そう思う (86票/29.9%)
- C: どちらとも言えない (10票/3.5%)
- D: そう思わない (4票/1.4%)
- E: 全くそう思わない (2票/0.7%)
- F: 無回答 (2票/0.7%)



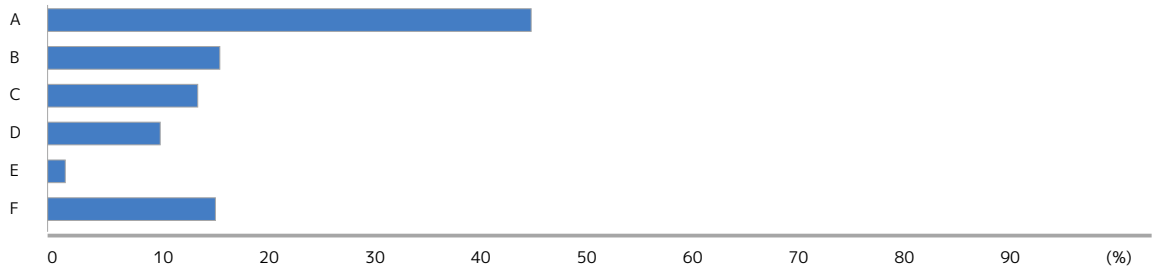
(Q.13) あなたは、シラバスを活用（使用）しましたか。

- A: はい (221票/76.7%)
- B: いいえ (66票/22.9%)
- C: 無回答 (1票/0.3%)



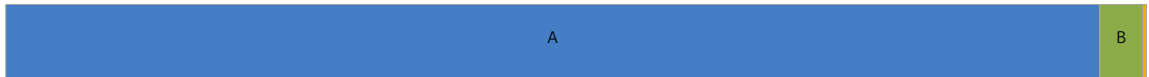
(Q.14) Q.13で「はい」と答えた方はどのように活用しましたか（複数選択可）。

- A: 科目選択・履修登録に活用 (193票/43.8%)
- B: 予習・復習に活用 (69票/15.6%)
- C: 受講にあたり授業中などに活用 (60票/13.6%)
- D: 試験・レポートに活用 (45票/10.2%)
- E: その他 (7票/1.6%)
- F: 無回答 (67票/15.2%)



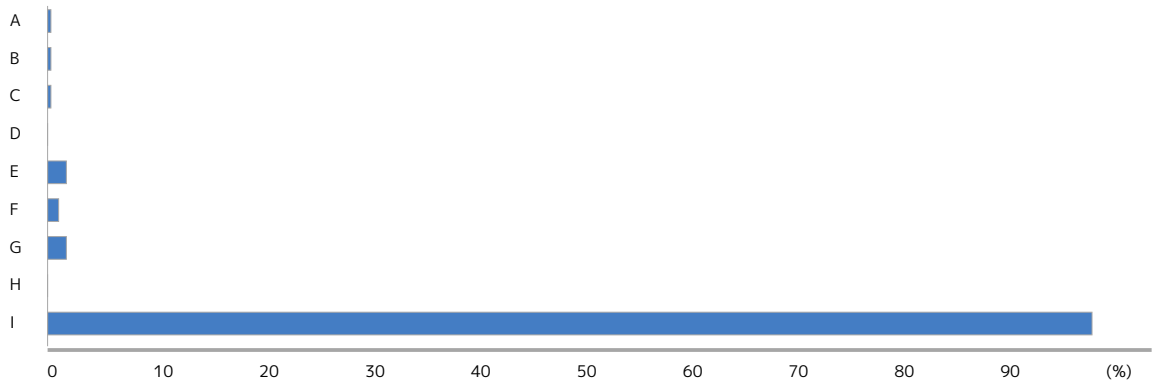
(Q.15) シラバスの情報は十分なものでしたか。

- A: はい (276票/95.8%)
- B: いいえ (11票/3.8%)
- C: 無回答 (1票/0.3%)



(Q.16) Q.15で「いいえ」と答えた方は、理由を以下より選択して下さい（複数選択可）。

- A: 「授業の概要・目的」の情報が不十分 (1票/0.3%)
- B: 「到達目標」の情報が不十分 (1票/0.3%)
- C: 「授業計画と内容」の情報が不十分 (1票/0.3%)
- D: 「履修要件」の情報が不十分 (0票/0%)
- E: 「成績評価の方法・観点及び達成度」の情報が不十分 (5票/1.7%)
- F: 「教科書」及び「参考書等」の情報が不十分 (3票/1%)
- G: 「授業外学習（予習・復習）等」の情報が不十分 (5票/1.7%)
- H: 「その他」の情報が不十分 (0票/0%)
- I: 無回答 (278票/94.6%)



(Q.17) この授業についての感想、授業の内容・方法などについての希望、改善してほしい点があれば書いて下さい。[200字上限]

(Q.18) 今学期はコロナ感染対策のため、遠隔形式（Zoom等）で授業が実施されました。遠隔形式でこの授業を受けてみた感想（良かった点、悪かった点、通信環境、改善してほしい点等）があれば書いて下さい。[200字上限]